

2019年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

2020年 3月 3日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	真世土 マウ
研究課題	大学と文化施設による地域文化力を育む「連携型プログラム」の実践研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	真世土 マウ	造形デザイン学科・准教授	セラミック	統括、事業実施	
		難波 久美子	造形デザイン学科・教授	テキスタイル	事業実施	
		島田 清徳	造形デザイン学科・准教授	テキスタイル	事業実施、経費管理	
	分担者	作元 朋子	造形デザイン学科・講師	セラミック	事業実施	
	岡本 汐加	造形デザイン学科・助教	テキスタイル	事業実施、経費管理		
研究実績の概要	<p>本研究は、大学と文化施設による「連携型プログラム」として、幅広い年齢層の地域住民に文化体験を提供し、地域の文化活動を活性化させるとともに、本学の専門教育と地域の結びつきにより、豊かな地域文化力を育むことを目的として実施した。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p><u>高梁市成羽美術館</u> ○化石デザインプロジェクト 化石アドバイザー：碓京子氏</p> <p>平成31年2月 学生が美術館で化石を見学調査</p> <p>4月～ 化石デザイングッズの開発に着手</p> <p>4月26日 化石研究者による学術的チェック</p> <p>令和元年5月31日 美術館で審査会 (学芸員、化石研究者、デザイナー)</p> <p>7月10日 美術館で搬入展示作業</p> <p>7月13日～ 一般公開</p> <p>7月21日 学生によるギャラリートーク</p>	<p><u>岡山県立美術館</u> ○ワークショップ 学芸員：福富幸氏</p> <p>平成31年4月～ ワークショップの内容の構想に着手</p> <p>令和元年5月～ 試作・検討</p> <p>6月～ 内容修正・検討</p> <p>7月～ 美術館へのプレゼン資料準備</p> <p>8月21日 美術館へのプレゼン (学芸員、博物館実習受講生)</p> <p>9月～直前まで 材料・道具等の準備</p> <p>11/10、17、24、12/1 美術館屋内広場・研修室で実施</p>
	<p style="text-align: center;">↓</p> <p><u>山陽新聞社 さん太ギャラリー</u> 令和2年3月4日～8日 ○成果発表【中止】</p> <p>2つの美術館との連携による事業成果を広く一般に公開するため、成果作品やパネルの展示、来場者へのワークショップやギャラリートークの提供など、開催直前まで準備を進めていたが、<u>新型コロナウイルスの感染拡大防止と、来場者および関係者の安全を考慮した結果、【中止】とした。</u></p> <p>○高校との連携 岡山県立美術館では、岡山南高等学校の2年生40名がワークショップに参加した。また、さん太ギャラリーでは、総社南高等学校の1・2年生17名に向けてワークショップおよびギャラリートークの準備を進めていたが、<u>新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、【中止】とした。</u></p>	
<p>成果資料目録</p>	<p>高梁市成羽美術館 化石デザインプロジェクト 螢雪時代記事 岡山県立美術館 ワークショップ 報告書(抜粋) 山陽新聞社さん太ギャラリー 成果発表会 広報用チラシ・トーク実施計画【中止】</p>	